

# 地域の現実と関わりながら 自己発見がはじまる

## 「チャレンジ21教育推進運動」 安田高校の場合

### 地域の複眼的な目で計画を

今年度、県下の百を越える高校のうち三十二校が、この運動に参加します。高校では小中学校と違つて地域代表の推進委員は教職員、保護者から選んでよいとなっています。地域とのふれあいが日常的にうすいがゆえにの措置なのでしょうか。

中学校などを中心とした地域の学校教育に関わる人達、就職関係で地域で世話になる人達、県内大学等の識者、放課後の生徒の校内外の活動にかかる人達とか見渡せば適任者がいろいろおられるような気もするのですが。（わたしは在任中、目の前の緊急な課題に日夜きりき

り舞いをして過ごしていました。いまふりかえって見ると近視眼的な教育活動に陥りかちだつたという反省があります。その意味でこの推進運動が学校を客観的にみてくれる声を複眼的に組み立てて運動の輪をひろげていけるといいなーと思いました。

まだどこも始まつたばかりです。どんなことをやるのか。県民のみなさんにその一例をお伝えします。

教育長さんも推進委員のメンバーという地域に支えられた安田高校の「チャレンジ21教育推進運動」もエンジン始動です。

「自分の良さに気付き、それを伸ばして地域に信頼され、期待される人になつてほしい。時代の変化を読

み取つて生きてゆくたましまし身につけてほしい。(同校の実施計画書より)、推進委員たちの願いです。

同校は「いきいきスクール運動」の成果・教訓もふまえて、それをさらに発展させようとしています。

\* 一年生は「環境問題」の学習です。

「いきいきスクール運動」の時、この問題ではゴミ処理場を見学しました。これに加えて、今年度の取り組みではすべての生き物の生活に欠くことのできない水を考えます。この地域ではその水源は阿賀野川です。建設省がこの川をどの様に制御しているかを学びます。

\* 二年生はボランティア活動です。

高齢者問題をひきつづき主題にしています。四年前から同町特養老人ホーム「はぐろの里」と交流していました。十一月二十二日の五、六限に介護実習と講演を聞きました。十一月七日の文化祭には昨年と同じく身障者施設「宝珠苑」の人達と「はぐろの里」の人達を招きます。この人達との交流が本格化してきます。

\* 三年生は情報教育を充実させます。

就職や進学の時期もあります。「いきいきスクール運動」でも自分の進路に必要な情報を足であるいてたしかめるため、大学や近隣の企業を訪ねてきました。

今年もこの課題に取り組みますが、インターネットによる情報収集にもあらたに挑戦します。

(編集部・文責・本田敏彦)

## 文化祭は企画で勝負

高  
校  
「五  
模  
祭」



特養のお年寄り招待

ボランティア授業の一環

ボランティア授業の一環として、特養のお年寄りを招待して、ボランティア授業を行なった。この授業では、お年寄りの方々が、自分たちの経験を語り合ったり、手作りの工作をしたり、一緒に歌を歌ったりなど、和やかな雰囲気の中で交流することができた。また、お年寄りの方々の言葉から、昔の暮らしや思い出話を聞くことができ、貴重な経験となってしまった。